

令和3年度入学式短期大学部学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

短期大学部の教職員を代表して、皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

今年の入学式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、保護者や来賓の方々の列席をお断りし、新入生と教職員のための式となりましたが、皆さんの晴れやかな姿を拝見することが出来、大変嬉しく思っております。

今、新入生の皆さんは、新しい学舎を前に、希望に胸を膨らませていることと思います。そのような皆さんが、自分自身の夢や目標に向かって充実した大学生活を送ることを願っています。夢や目標を実現するためには、大学では、自らが考え計画し、行動しなければなりません。それは、自由な反面、責任ある行動が求められる場でもあります。戸惑い迷うこともあるかと思えます。そのような皆さんに対し、教師は、それぞれの専門分野で、学びの方向を示し、支援を行います。まずは、皆さんが、主体的に学ぶ意思と意欲を持って大学生活に臨むことが第一です。

現在、短期大学部では、免許資格の取得を目的に人材育成が行われています。そのため、多くの学生が、卒業後、栄養士・小学校教諭・幼稚園教諭・保育士などの免許資格を活かした専門職に就きます。

そのような食・教育・保育の場で求められるのは「コミュニケーション力」です。

では、コミュニケーション力を、大学で身に付けるためには、どうしたら良いでしょうか。それは、自分の考えたことを誰かに話してみることです。脳科学者 茂木健一郎氏は、著書『質問力』で、話すことについて次のように述べています。

友人と話していると、その人の言葉に答えようとして、なにかを自分で言ってみたら、「あれ、私、こんなこと言っている！」と自分で驚くことはありませんか？

人に分かるように説明しようとする、脳の中で考えていることが整理されて、答えが出てきやすくなることが知られています。

話すためには、どうしても整理しなければならなくなるので、その過程で答えが見つかりやすくなります。言ってみて初めて、「自分はこんなことを思っていたのか！」と気づくというわけです。自分の考えは、分かって初めて口にできるのではなく、口にして初めて見えてきます。脳は、一度外に出さないと、自分自身と対話できないのです、と述べています。

大学では、自分と違うさまざまな人との出会いがあります。そんな、自分と異なる人の違いをリスペクトし、相手と向き合うことで友人たちとのつながりが広がり大学生活が楽しくなります。

茂木健一郎氏は、「非常に遠く見えても、非常に近いのが人間です。どんなに遠い存在に見えても、誰もが自分の幸せ、自分の周りの人の幸せを願っています。」とも述べています。

これからの持続可能な社会、SDGsを担う若者として、皆さんが、友人とともに、自分らしく有意義に大学生活を送り、成長することを願い、私の式辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

令和3年4月3日

別府大学短期大学部 学長 仲嶺 まり子